

生きる力の育成

平成24年度指定

生きる力を育てる「食育（地産地消）」の充実

～学校と家庭・地域社会が連携・協働する食育をめざして～

殿居小学校 PTA

1 学校地域の概要

PTA会長 岡村 尚道
学校長 徳吉 朗子
児童数 20名
会員数 21名（家庭数15 教職員6）
所在地 〒750-0401

山口県下関市豊田町大字殿居1040-1

TEL 083-768-0221

FAX 083-768-5427

E-mail tonoi-shou@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp



「殿居小 道の駅」オープン

(1) 学校の特徴

本校がある殿居地区は、下関市豊田町西部に位置し、校区の90%近くは森林である。北には、天井ヶ岳(691m)一位ヶ岳(671m)、南には、華山(713m) 狗留孫山(616m)に囲まれ、学校の近くを栗野川が流れているという緑豊かな自然の中にある。

地形は南北に長い瓢箪形で、住家は狭い谷間に点在し、児童数は漸減傾向にある。本年度は全校児童20名、完全複式3学級という小規模校である。



岩手県宮古市との交流会

子どもたちは、協力して物事を進めていく姿勢が身についている。本年度総合的な学習の時間や生活科で取り組んでいる「殿居小道の駅」では、高学年が中心となってアイデアを出し合い、企画しながら、全校で地域の方との交流を深め、感謝の気持ちを伝える学習や活動を進めてきた。これがマスコミにも取り上げられ、地域の話題や活気にもつながっている。

(2) PTA活動の特徴

上記のような学校環境や児童の実態を考えると、殿居小PTAの役割と期待される成果は大きい。様々な行事を通して、子どもと共に育つ「共育」、協働して育てる「協育」、故郷の中で育てる「郷育」を実践している。殿居小PTAは、地域自治組織とも密接な関係を築き、新たにコミュニティ・スクールや協育ネットとしての活動と連動して、児童の健全育成とともに、地域の活性化も図るよう努力している。地域の方々は、学校に対して大変協力的であり、地域の教育力も充実している。殿居地区全体が一つのビッグファミリーを形成していると言っても過言ではない。

このため、子どもたちは、単に「自分たちは殿居小の子どもたち」というだけでなく「殿居地区の子どもたち」なのだという自覚が育っている。JA 豊田西支所のご協力をいただきながら、本年度は自分たちで野菜を育て、自分たちで献立を考えて作る地産地消の取組に力を入れてきた。

(3) P T Aが学校と一体となっねらうもの

殿居小を支援する殿居小 P T Aの活動は、殿居小学校が掲げている学校教育目標「自ら学び心豊かでたくましい実践人を育てる」へ同じ方向に向かうベクトルでなくてはならない。

これまでの 学校・P T Aの伝統を継承	児童の よりよい変容	殿居小教育の真価を 深化・進化
◎先人の業績の活用・発展 ◎現在の取組の価値付け	□児童の成就感・達成感 □保護者・地域の連携強化	◇地域への情報発信 ◇学校力の強化

(4) P T A組織の概要

殿居小がこれまでの伝統を継承し、その成果を形であらわすことを通して、殿居小教育の真価を高めていく組織づくりに取り組んでいる。

その教育活動に対して本校 P T Aは、今しかできない P T A活動を見極め、新たな創造を積み重ねていくことに積極的に参加し、協力を惜しまない体制づくりを構築している。

組織図



2 殿居小教育と P T Aの関わり

■表現力向上

児童の表現力を高める「おうむ会」、「全校児童会議」や地域への情報や感謝の気持ちを発信する「殿居小道の駅」等の実践をより充実させている。P T Aや地域の方の参観による協力を得て、児童一人ひとりが自分の考えをもち、堂々と発表できるようになってきている。



全校表現活動「おうむ会」

<p>■学力向上</p> <p>授業改善や校内研修の充実，朝学での「全校計算タイム」「漢字百問テスト」「読書」等を通して，学力の向上をめざしている。今年度は算数の授業研究を重点的に行い，家庭との連携によって，家庭学習を充実させることができた。</p>	 <p>朝学での全校計算タイム</p>
<p>■地域との連携</p> <p>コミュニティ・スクールとなった本校では，地域との交流が深まり，みんなで学校を応援しようという雰囲気が高まっている。「殿居小道の駅」は，地域や学校のよさを知り，感謝の気持ちを伝える絶好の学習の場となっている。</p>	 <p>【殿居小道の駅】で地域の方と交流</p>
<p>■生き生き食育</p> <p>平成元年に「学校給食優良校」表彰を受けた経緯を大切に，関係機関と連携を深めながら「食育と学校給食」について全校挙げての実践を積み重ねている。本年度は，校地内に学校農園を集め，自分たちで野菜を作り，献立を考え，調理し，食べる『地産地消』をテーマに食育に取り組んでいる。</p>	 <p>「みのりの丘」でそば打ち体験</p>

3 本校PTAが進める食育のねらい

子ども達を取り巻く環境は大きく変化し，自ら考え自ら切り開いていく「生きる力」が必要とされている。「生きる力」を育てていくためには子も親も元気が必要であると考え。その元気の源は各家庭の食が大切であると考え，平成23年度は『生きる力をつくる弁当づくり』、本年度は『地域の食材を生かして』をテーマに，家庭・地域・学校が協働しながら，生活習慣の改善に向けた効果的な取組を展開している。

(1) 平成24年度の主な活動

<p>学級委員</p>	<p>男性委員 女性委員</p>	 <p>全校PTA（ダッチオープン料理）</p>	 <p>親子でお弁当づくり</p>
<p>専門部</p>	<p>保健体育部 研修厚生部</p>	<p>豊田町PTA親睦交流会（綱引き大会） 学校保健委員会 親子除草作業（夏季） 秋季大運動会PTA競技企画・推進</p> <p>PTA広報紙の発行（年2回）教育講演会の企画・推進 交通指導（交通安全推進） 再資源化推進事業（廃品回収作業） PTA除草作業（春季）</p>	 

4 研究主題について

「生きる力を育てる『食育（地産地消）』の充実」
 ～学校と家庭・地域社会が連携・協働する食育をめざして～

(1) 主題設定の理由

子どもたちを取り巻く環境は、大きく変化し、自ら考え自ら切り開いていく「生きる力」が必要とされている。「生きる力」を育てるには、子どもの元気・努力と、明日の子どもの成長を信じ、今日を懸命に生きる親たちの元気も必要である。そして、子ども親も元気を出すには、温かい支援や声かけによる協働体制と、各家庭の食が大事である。そこで、家庭・地域・学校が協働しながら食への関心を高め、子どもたちの生活習慣の改善に向けた効果的な取組を定着させていくことを喫緊の課題として、取り組む意義は大きい。

(2) 仮説

- イ) 様々な機会を工夫して、新たな食育の実践（「**地産地消**」の農園活動）を押し進めることで、児童・保護者の食への意識を高めることができるのではないだろうか。
- ロ) これまでの給食指導をさらに充実させることで、食への感謝の気持ちを高め、食習慣に配慮した生活を送ることへの意識づけができるのではないだろうか。

(3) 研究方法

- 山口県PTA連合会から助成を受け、食への関心を高める。
- 「生き生き食育」に力を入れ、PTA 活動や学校給食を通して、地域・家庭・学校が協働して幅広く食への実践を積み重ねていく。
- 児童・保護者アンケートを作成し、アンケート結果を食育に活用する。(研究物参照)

(4) 実践概要

生き生き食育活動		活 動 内 容
生きる力を育てる食育	食に関する体験活動を推進するPTA活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休み親子奉仕作業後の PTA によるダッチオープン料理 ○ 公民館との連携、「歓迎遠足」 等 ○ 食育活動「親子でお弁当作り」 ○ 食育活動「家族へ昼食をつくろう」 ○ PTA 参加による給食試食会

5 実践内容

食に関する体験活動を推進するPTA活動の充実(赤字は今年度新たに取り組んだ活動)

	活動内容・協働関係	活動の様子
1	<p>PTA ダッチオープン料理 夏休み親子奉仕作業後のPTAによるダッチオープン料理</p>	 <p>「野菜も食べるよ」</p> <p>「おいしいね」</p>
2	<p>歓迎遠足 公民館活動とPTAの連携による歓迎遠足</p>	 <p>たけのこの丸焼き</p> <p>みんなで川遊び</p>
3	<p>弁当作り(豊田地区食推さんとの連携) 日曜参観の日を利用して、午前の授業参観と午後からの親子作業の昼食として豊田地区食推さんの指導のもと親子でお弁当を作って一緒に会食</p>	 <p>がんばって作りました</p> <p>「おいしいね」午後からもがんばります</p>
4	<p>昼食作り(豊田地区食推さんとの連携) 学校農園で育てた大根と白菜を利用した「家族へ昼食を作ろう」は、豊田地区食推さんの指導の下に実施。子ども達が作った昼食を保護者や地域の方と一緒に会食</p>	 <p>がんばって作りました</p> <p>おいしそうでしょ</p>
5	<p>給食試食会 予備入学のときに新一年生親子と一緒に会食</p>	 <p>給食試食会の様子</p>

平成24年度 「地産地消」をめざす農園活動

畑（農園）を子どもたちの生活場面に近くし、JA豊田西支所の協力を得て

- 育てたいへんさ、できた喜びをしっかりと味わわせる
- 観察やお世話をしっかりとする（水曜日の朝は縦割り班で「農園活動」）
- 育てた野菜を使い、献立を考えて、調理する
(食への感謝の心を育てる)

さつまいも
① 夏野菜
(5月植付)



6月植付	約30	
校舎北側の畑	すいか 4	かぼちゃ 4
中庭西側の畑	トマト 8	ミニトマト 8
	ピーマン 4	おくら 4
校舎西側の畑	なす 8	おくら 4
	きゅうり 4	
校舎北側	さつまいも	約30



	A班	B班				
農具倉庫	なす おくら 白菜 大根	1・2年 生活科 白菜 大根	きゅうり 枝豆 秋 そば	へちま インゲン豆 大豆 秋そば	じゃがいも 秋そば	

3年

C班

ピーマン
おくら
秋そば

ひまわり
秋そば

ミニトマト
秋いちご

トマト
秋いちご

D班

かぼちゃ
すいか
秋そば

南校舎 中庭 C班 北校舎

さつまいも

- ② 冬野菜（大根・白菜）11月植付
- ③ 蕎麦（そば打ち体験）9月植付
- ④ いちご（来年度「殿居小道の駅」で）11月植付



5 成果と課題

○ 成果

- ① 様々な機会を工夫して、食育の実践(昼食づくり)を推し進めることで、児童・保護者の食への意識を高めることができた。
- ② 地域の食材に関心を持ち、特産物を生かした料理に挑戦する体験を通して食と自然と命とのつながりに気づき、食べ物をいただいているという感謝の気持ちや食習慣に配慮した生活を送ることができるようになってきている。
- ③ 本年度は、学校の「農園活動」を見直し、校地内に畑を集約した。耕地面積は小さくなったが、1～6年生までの縦割り班の活動が充実し、子どもたちが野菜の生育状況を観察したり、喜んで収穫をしたりすることができた。自分たちで調理して食べるために野菜を育てる、あるいは「殿居小道の駅」で「地域の方に食べてもらう」ために野菜を育てるというように、農園活動の目的意識が強くなった。

○ 課題

殿居小 PTA は、学校地域と連携・協働して、食育の実践を積み重ねていく中で、食への関心を高めてきた。そのためには、PTA 会員同士や先生方とのかかわり、地域や関係機関とのつながりが最も重要であることが分かった。「食への関心」は「人への関心」であり、「地域への関心」であることも分かった。子どものために、また、地域の活性化のために、PTA 活動そのものの活性化を図っていくことが、子どもの元気になり地域の元気になることを改めて認識し、次の3点を今後の課題としてとらえている。

- ① 様々な人的物的地域素材を大事にし、新たな素材を発掘していく努力をしていく。
- ② 公式・非公式に PTA・地域で互いに声をかけ合う。
- ③ 心底 PTA 会員が PTA 活動を楽しむ。

6 おわりに

殿居小学校 P T A 絆の強さは、学校行事や P T A 活動の参加率が高いことからもうかがえる。この絆の強さを地域へ広げ、学校力の増強につなげていくことを念頭に置いて常に活動している。

私たちは、昨年度の「生きる力をつける楽しい弁当づくり」、本年度の「地域の食材を生かして」の推進を通して、私たち親子が着実に成長している実感を味わっている。

これからも生きている喜びを分かち合い、感動を共にできる P T A をめざして、今後も励み続けたいと思っている。